

開催日時：平成 26 年 1 月 8 日（水）10：00～12：00
開催場所：川崎医科大学附属川崎病院 東 9 階 会議室

議 事

1. もも脳パス運用の手順

<現在の運用> （例：川崎病院での運用）→ 日赤病院、労災病院も同様の運用

①パス対象者の発生

→患者用ファイル（エクセル）の作成【地域連携室】

当院からパス適用の場合：雛形のエクセルから起票

紹介患者の場合：送られてきた CD からファイルをダウンロード

→患者ファイルの設置【地域連携室】

院内ネットワークの共有フォルダへ患者用ファイルを設置する

②患者用ファイル（エクセル）への入力

→スタッフが共有フォルダ内の患者ファイルに記録を行う【施設スタッフ】

③次の施設への引き継ぎ

→パス（OV）の印刷及び CD の作成・送付（郵送 or 患者手持ち）【地域連携室】

<拡張機能導入後の運用案>

①パス対象者の発生

→患者用ファイル（エクセル）の作成【施設管理者】

急性期の場合：情報共有ツールの雛形のエクセルをダウンロードして起票

回復期以降の場合：情報共有ツールで紹介元の施設が編集したファイルをダウンロード

→患者用ファイルの設置【施設管理者】

施設内スタッフがアクセスできるフォルダへファイルの設置を行う。施設により

ネットワーク環境が異なる為、セキュリティポリシーに基づき作業を行う

②患者用ファイル（エクセル）への入力

→スタッフが病院内イントラネット内で患者ファイルに記録を行う【施設スタッフ】

③次の施設へ引き継ぎ

→患者用ファイルを情報共有ツールへアップロード【施設管理者】

→公開対象設定と設定完了の連絡【施設管理者】

紹介先施設を対象者の公開施設に追加し、電話もしくは FAX で公開設定が完了した旨を連絡する。紹介先が情報共有ツールを使用していない場合は現状通り CD 運用とする。

→【施設管理者】を地域連携室等の部署にするか医師個人にするかは施設毎の判断とする

2. 情報共有ツールに希望すること

- ・進捗管理、段階ごとの権限管理が明確になっていること

→どこの施設で患者を受け持っているのか、アップロードされているどのファイルが最新版であるかが画面上明らかになっていること。→明らかになっている

→誰かがファイルをダウンロードして編集を行っている場合、ファイルを編集不可とし、誰が編集しているかメッセージを表示させる

参照用に PDF ファイルをダウンロードさせることが可能か→難しい

- ・もも脳パス参加施設が一覧で確認できること

→次に患者を紹介する施設へ、拡張機能でファイルを送信してよいか確認する為、晴れやかネットに同様の機能があるが、もも脳パス参加施設に限定して表示できるか。→できる

3. もも脳パスでの役割・分担案

<晴れやかネット事務局>

- ・施設登録、利用者登録、もも脳パス利用登録

<もも脳パス事務局>

- ・参加施設登録の窓口

<もも脳パス参加施設>

- ・患者登録、記事の参照および記録、紹介先への権限付与

→患者登録・編集・権限の付与は管理部門を介さず、各施設で行えるようにする

→もも脳パスへ参加して良いか判断が必要なため、もも脳パス事務局で参加登録を受付け

その後晴れやかネット事務局にて晴れやかネット ID の登録と、もも脳パス（情報共有ツール）の使用権限の付与を行い、晴れやかネット事務局から個々のユーザー（パス参加施設）に登録完了の連絡をする

→運用説明会の開催等をどのような手順で行うのか。県は、どこまで協力してくれるのか→マニュアルができてから説明会をもも脳事務局で開催

4. 運用開始に向けて

- ・情報共有ツールの完成はいつになるのか→次回デモする
- ・まずは稼働実績が必要な為、特定の施設間での運用になると思うが、いつまでの開始を目指せば良いのか→3月中に1例でも実施（労災病院、川崎病院、光南病院）
- ・運用開始後の窓口→運用に関する事はもも脳ネット事務局
- ・参加施設を募る際に1施設あたりの負担をどのようにアナウンスすれば良いのか